

池袋学

東京芸術劇場 × 立教大学 連携講座

住む人、働く人、学ぶ人、遊ぶ人みんなが参加できる池袋学が今年も開講

春季



あわい(間)の街としての池袋、
そして池袋モンパルナス — 社会心理学からの考察 —

日時: 2016年5月21日(土) 14時~16時

講師: 押見輝男(立教大学名誉教授)

会場: 東京芸術劇場5Fシンフォニースペース

『漫画少年』とトキワ荘の時代 — 世界に広がるアニメブームのルーツを探る —

日時: 2016年6月18日(土) 14時~16時

講師: 加藤丈夫(独立行政法人国立公文書館 館長、「漫画少年」編集長 加藤謙一 四男)

会場: 東京芸術劇場5Fシンフォニースペース

スタジオ200 — 80年代の新しい体験教室 —

日時: 2016年7月16日(土) 14時~16時

講師: 久野敦子(公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・ディレクター)

会場: 東京芸術劇場5Fシンフォニースペース

夏季



講演会: 雑司が谷とは何か

日時: 2016年8月1日(月) 10時30分~12時30分

講師: 「雑司が谷はどこか?」渡辺憲司(自由学園最上級部長、立教大学名誉教授)

「法明寺と雑司が谷」近江正典(法明寺住職)

「未来文化遺産と雑司が谷」川上千春(日本ユネスコ協会連盟事務局長)

※当日は10時30分より11時まで、高野之夫豊島区長らのご挨拶がございます。

会場: 立教大学7号館7101教室

シンポジウム: 雑司が谷を中心とした地域づくり — 大人と子どもと —

日時: 2016年8月1日(月) 13時~15時

【事例報告とパネルディスカッション】

三田一則(豊島区教育委員会教育長)、渡邊隆男(雑司が谷未来遺産推進協議会会長)、

平井憲太郎(としまユネスコ協会代表理事)、小池陸子(「としま案内人 雑司ヶ谷」代表)ほか

司会: 阿部治(立教大学社会学部教授、同ESD研究所 所長)

会場: 立教大学7号館7101教室

秋季



池袋は鉄道から始まった — 池袋の鉄道史と未来 —

日時: 2016年10月8日(土) 14時~16時

講師: 老川慶喜(跡見学園女子大学副学長、立教大学名誉教授)

会場: 立教大学太刀川記念館3Fホール

池袋は“演劇都市”になれるか — その過去・現在・未来 —

日時: 2016年10月29日(土) 14時~16時

講師: 高萩宏(東京芸術劇場副館長)、後藤隆基(立教大学社会学部教育研究コーディネーター)

会場: 立教大学太刀川記念館3Fホール

多文化共生の池袋 — 立教大学の果たす役割を考える —

日時: 2016年11月12日(土) 14時~16時

講師: 上田信(立教大学文学部教授)、ゲスト=吉岡知哉(立教大学総長、立教大学法学部教授)

会場: 立教大学太刀川記念館3Fホール

参加料: 1,000円(夏季講座は無料) ※立教生は全講座無料(当日受付で学生証をご提示ください)

主催: 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) / 立教大学

後援: 豊島区

協力: NPO法人ゼファー池袋まちづくり / 立教大学ESD研究所

東京芸術劇場
Tokyo Metropolitan Theatre



立教大学

文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業

池袋学

東京芸術劇場 × 立教大学 連携講座

池袋に住む人、暮らす人、池袋で働く人、学ぶ人、池袋を訪れる人、みんなが参加できる池袋学を今年も開講致します。このまちの由来や歴史、文化、暮らし、街並みなど、色々な視点で池袋を語ります。そしてこれからの池袋について考えます。2016シリーズは、文化、歴史、都市論、多文化共生など多彩なラインナップでお届けします。全講座制覇もよし、興味にまかせてつまみ食いするもよし、それぞれの楽しみ方を発見してください！

定員：東京芸術劇場会場 70名／
立教大学：太刀川記念館3Fホール150名、
7号館7101教室 250名

※先着順・定員に達し次第、お申込を締め切ります。

参加料：1,000円(夏季講座は無料)

※立教生は全講座無料(当日受付で学生証をご提示ください)

お申込み方法

東京芸術劇場HP、立教大学HP上の「お申込みフォーム」にご記入のうえ送信ください。

※ご希望の講座の他に、連絡先アドレスなどの登録(無料)が必要です。
※お申込み時にいただく個人情報は本講座以外の目的には使用しません。

主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/立教大学
後援：豊島区
協力：NPO法人ゼファー池袋まちづくり/立教大学ESD研究所

春季



あわい(間)の街としての池袋、 そして池袋モンパルナス —社会心理学からの考察—

日時：2016年5月21日(土) 14時～16時

講師：押見輝男(立教大学名誉教授)

会場：東京芸術劇場5Fシンフォニースペース

池袋モンパルナスはなぜ池袋という街で生まれたのか？アトリエ村では、どのような人間関係がはぐくまれていたのか？「ま・あわい(間)」についての社会心理学の視点から、池袋モンパルナスのころを読み解き、池袋という土地の魅力に迫ります。

※第11回「新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館」実行委員会との共催です。

『漫画少年』とトキワ荘の時代 —世界に広がるアニメブームのルーツを探る—

日時：2016年6月18日(土) 14時～16時

講師：加藤丈夫(独立行政法人国立公文書館 館長、『漫画少年』編集長 加藤謙一 四男)

会場：東京芸術劇場5Fシンフォニースペース

いま日本のMANGAは「日本発のユーク文化」として世界中の人々に愛されていますが、そのルーツを探っていくと、戦後間もないころトキワ荘というアパートで暮らしていた手塚治虫と彼を慕って集まってきた若い漫画家たちにたどりつきます。当初、彼らの活躍の場は『漫画少年』という小さな雑誌でしたが、これを創刊した加藤謙一は戦前『少年倶楽部』の編集長を務め多くの漫画家や作家を育てました。今回は編集者としての加藤謙一の生き方から戦前・戦後を通じたマンガ発展の歴史を考えます。

スタジオ200 —80年代の新しい体験教室—

日時：2016年7月16日(土) 14時～16時

講師：久野敦子(公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・ディレクター)

会場：東京芸術劇場5Fシンフォニースペース

1979年、西武百貨店池袋店の8階に「もっと感覚的に生きられるはずだ。フィルム、パフォーマンス、コンサート、ギャラリー、そして落語。その場に身を置かなければ得られない感覚体験が連続発信される空間の誕生です。」のコピーのもと、「スタジオ200」は誕生しました。演劇・舞踊のプログラム・コーディネーターとして現場を支えてきた久野敦子氏が、当時の挑戦と熱気と面白さを伝えます。

夏季



講演会：雑司が谷とは何か

日時：2016年8月1日(月) 10時30分～12時30分

講師：「雑司が谷はどこか？」渡辺憲司(自由学園最高学部長、立教大学名誉教授)

「法明寺と雑司が谷」近江正典(法明寺住職)

「未来文化遺産と雑司が谷」川上千春(日本ユネスコ協会連盟事務局長)

※当日は10時30分より11時まで、高野之夫豊島区長らのご挨拶がございます。

会場：立教大学7号館7101教室

シンポジウム：雑司が谷を中心とした地域づくり —大人と子どもと—

日時：2016年8月1日(月) 13時～15時

【事例報告とパネルディスカッション】

三田一則(豊島区教育委員会教育長)、渡邊隆男(雑司が谷未来遺産推進協議会会長)、

平井憲太郎(としまユネスコ協会代表理事)、小池陸子(「としま案内人 雑司ヶ谷」代表)ほか

司会：阿部治(立教大学社会学部教授、同ESD研究所 所長)

会場：立教大学7号館7101教室

雑司が谷は、近年地域住民が主体となってまちづくりを進めています。2014年には日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」の登録認証を受けました。池袋周辺は古くは雑司が谷の地名で呼ばれていたことから、その歴史をたどり未来を考えます。

※文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESDによる地域創生の評価と地域創生拠点の形成に関する研究」の一環として開催。

秋季



池袋は鉄道から始まった —池袋の鉄道史と未来—

日時：2016年10月8日(土) 14時～16時

講師：老川慶喜(跡見学園女子大学副学長、立教大学名誉教授)

会場：立教大学太刀川記念館3Fホール

池袋には現在、鉄道の8路線が乗り入れており、1日の平均乗降客数は271万人(2008年)で、新宿に次ぐ国内第2位の巨大ターミナル駅となっています。その池袋も、明治18年に赤羽ー品川間に品川線(後の山手線)が開業した際には駅が設けられず、明治36年、目白の住民らの反対もあって急きょ豊島線(後の山手線)の駅舎が池袋に建設されました。それまでこの一帯は武蔵野の面影を残すのどかな農村地帯でした。大正、昭和をへて今日に至る池袋の発展を鉄道の歴史とともにふり振り返り、その未来を展望します。

池袋は“演劇都市”になれるか —その過去・現在・未来—

日時：2016年10月29日(土) 14時～16時

講師：高萩宏(東京芸術劇場副館長)、後藤隆基(立教大学社会学部教育研究コーディネーター)

会場：立教大学太刀川記念館3Fホール

戦後まもなく芽吹いた池袋の劇場文化は、時代ごとに多彩な花を咲かせ、紆余曲折を経ながら発展してきました。現在池袋には、大小さまざまな劇場や劇団が点在し、ローカル・グローバルな演劇祭も開催されています。2020年春には、東口の旧庁舎エリアに8つの劇場を擁する大規模施設が竣工予定であり、豊島区が推進する「国際アート・カルチャー都市」構想の中でも演劇が果たすべき役割は小さくはありません。その中で、池袋は“演劇都市”としての核となるのでしょうか。本講座では、池袋と演劇の過去を知り、現在をふまえた上で、どのような未来が描けるのかを考えます。

多文化共生の池袋 —立教大学の果たす役割を考える—

日時：2016年11月12日(土) 14時～16時

講師：上田信(立教大学文学部教授)、ゲスト＝吉岡知哉(立教大学総長、立教大学法学部教授)

会場：立教大学太刀川記念館3Fホール

立教大学では2014年に「Rikkyo Global 24」を公表し、さらなる国際化を進めています。10年後の2024年には現在約500名の外国人留学生が2,000名となる見込みですが、アジアとりわけマレーシア、インドネシアなどイスラム圏からのムスリム学生が増えることが予想されます。様々な文化的背景を持つ学生が安心して衣・食・住を組み立てるために、大学は何をしなければならのでしょうか。「池袋学」の最終回は、池袋という大きなコミュニティの一員でもある立教大学が、多文化共生にどのように取り組んでいるかというところを、吉岡総長をゲストに迎えて伺います。

東京芸術劇場

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1

Tel. 03(5391)2111 <http://www.geigeki.jp/>

JR、東京メトロ、東武鉄道、西武鉄道池袋駅西口徒歩2分。

池袋駅地下2b出口直結。

立教大学

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

Tel. 03(3985)2202 (広報課) <http://www.rikkyo.ac.jp/>

JR、東京メトロ、東武鉄道、西武鉄道池袋駅西口徒歩7分。

